vol.16 上町茉未花さん

みなさんは、世界の第一線で活躍されている女性プログラマーをご存知でしょうか？
JOI情報オリンピック日本委員会が実施する「先輩に聞く！プログラマーへの道しるべ」では、プログラミングやその周辺の技術や知識を使って活動している女性の先輩方に、その仕事内容や学生時代についてのお話を伺っていきます。
第 16 回目に登場いただくのは、鈴与シンワート株式会社のデジタルビジネスソリューション事業部で CX グループに在籍している、上町茉未花（かみまち・まみか）さんです。
聞き手は JOI 情報オリンピック日本委員会理事で東京大学の山口利恵が務めます。ぜひみなさんの進路の参考にしてみてくださいね。

鈴与シンワート株式会社　上町茉未花さん

システムを必要とするお客様のマネジメント業務に従事

山口　まず、鈴与シンワート株式会社をご存知ない方の為に、どんな会社か教えていただけますか？

上町さん　静岡を本拠地としている鈴与グループのひとつで、鈴与シンワートは情報事業を担っています。鈴与グループには、物流や商社、建設、食品、航空などの部門があります。
山口　デジタルビジネスソリューション事業部に所属とのことですが、どういったお仕事をされているのですか？

上町さん　私自身は、お客様に一番近いところで仕事をさせていただいており、最近ですと、コンビニエンスストア（コンビニ）事業の会社に出向いています。例えば、コンビニのチケット発行システムに関わる仕事などをしています。システムそのものをつくると言うよりは、システムをつくっている会社とコンビニ事業の会社との間で調整などをしています。

山口　他に上町さんが関わられた大きなプロジェクトはありますか？

上町さん　市のホームページの中にマイページをつくるという案件に関わりました。入社1年目で、プロジェクトマネージャーの補佐として参加し、プロジェクトの進捗管理やお客様とのミーティングの調整などを担当しました。

山口　お客様とお話しする機会が多そうな印象ですが、仕事をするうえでどんなところに面白みを感じていますか？

上町さん　私は、ひとりで黙々とプログラムを書くより、お客様とお話をするのが楽しいと思うタイプです。お客様とコミュニケーションを取りつつ、困りごとをヒアリングし、それを上司に伝えることで、実際にプロジェクトとして始動することもあり、やりがいを感じます。

山口　お客様先でのヒアリングが大事なんですね。

上町さん　例えば、チケット発券機を担っている会社の方が、弊社に来てテストをすることがあります。私は横にいてスタンバイしていることが多いのですが、改修しているシス

テムではないことで、「実はこういうところがうまくいってなくて」とか「エラーが出て困っている」とか本音を聞くことがあります。その悩みをもとに、じゃあどうしたらいいだろうと考えて行動するのですが、そのときに上司から細かく指示されることもなく、自由にやらせてもらっているので、非常に前向きに取り組むことができています。

山口　お仕事中は雑談も多くて楽しいと伺いましたが。

上町さん　私は就活がコロナ禍で、最終面談もオンラインでやったくらい、直接対面で人と会わずに入社しました。入社後も1年目はほぼ在宅勤務だったので、仕事で関わる方との雑談を経験せずにいました。今の案件に入ってからは、お客様先に行くことが週に3、4回あり、直接のコミュニケーションが増えて良かったと思っています。対面だからこそ聞くことができるお話もあるので、やはり対面でのコミュニケーションは大事だなと感じました。

地元青森から遠く離れた大阪の大学に進学

山口　ご出身は青森県八戸市だそうですね。高校生までは八戸で、その後の進路は？

上町さん　大阪大学（阪大）の外国語学部へ進学して大阪に引っ越しました。何かを特別に勉強したくてというよりは、田舎から都会に出たいという気持ちが強くありました。周りでは東京に出る人が多かったので、私はもう一歩踏み込んで関西に行こうと。

山口　八戸から大阪は遠いので、あまり進学の想像ができなさそうですよね。

上町さん　そうですね。阪大に行ったのは、高校の同級生240人くらいの中でも2人くらいしかいませんでした。そもそも東京より西に行く人は学年で10人もいないくらい。東北からだと東京や仙台に進学・就職をする人が多く、関西へ行くのは非常にレアなケースかなと思います。

山口　外国語学部は一般的な学部かと思いますが、阪大を選んだのには理由があったんですか？

上町さん　外国語学部がある大学はおっしゃる通り多いと思うのですが、阪大は大阪外国語大学という大学と合併してできた大学なので、扱う言語数が多いんです。日本の言語数が多い大学ランキングで言うと、東京外国語大学の次くらいです。私のポリシーとして、人生のものごとを決める際は、なるべく選択の幅を持ちたいと思っているので、阪大に決めました。

山口　阪大に行くのは大変だったとのことですが。

上町さん　勉強以外では、父を説得する必要がありました。親世代にとって、東京よりもさらに西へ行くのは一大事。父からは「大学へ行くとしても東京まで。大阪で何かあってもすぐに行けないじゃないか」と反対をされました。ただ、母は神奈川県出身なので、都会で生活することに慣れていました。母が「行きたいなら行けばいいんじゃない」と父を説得して、私を大阪の大学に行かせてくれました。

地元八戸の風景。奥に見えるのが「蕪島神社」。※蕪島神社は、ウミネコ繁殖地として、国の天然記念物に指定されている。

朝起きてから夜寝るまで、ボート一色の大学時代

山口　阪大ではボート部に所属されていたそうですが、ボート部ってどんなことをするのですか？

上町さん　1人乗りから8人乗りまである細長いボートに乗ってレースをします。大会では2,000mレースが主流で、一番早くゴールした人が勝ちというシンプルな競技です。大学時代は、毎朝4時から大阪の淀川で朝練をして、学校に行き、帰って夕練をして…という生活をしていました。

大学のボート部時代

山口　朝４時だとまだ陽も上がってない時間ですよね。淀川は阪大のボート部だけじゃなくて、他の大学も使っていたんですか。

上町さん　阪大の水域の隣に神戸大学の水域がありました。普段朝練をするときはお互いの水域を使用しますが、土日の朝やお昼などはお互いがどちらかの水域に行き、そこでレースの練習をしたりしていました。

山口　生活がボート一色ですね。

上町さん　そうですね。合宿所にいたので、家に帰るのも週に 2 日とか。大学時代はボート一色でした。

山口　なぜボート部に入ろうと思ったのですか？

上町さん　中高と体育会系の部活に入っていたので、大学では音楽サークルなども考えていたのですが、ボート部の新歓に行った際に「みんなで一丸となって勝ちを目指そう」という雰囲気に惹かれました。また、カレッジスポーツと呼ばれるボートなら、大学から始めても経験者を追い越して入賞できることもあるので、そこもいいなと思い、ボート部を選びました。

「手に職がほしい！」と文系からIT系の会社へ就職

山口　上町さんが初めてプログラミングに触れたのはいつですか？

上町さん　大学4年生の夏頃です。鈴与シンワートに内定が決まったのですが、今までプログラミングに触れたことがなかったので、このまま入社するのは不安だなと思い、簡単なところから勉強しようと考え、始めました。独学で勉強するのは難しそうだったので、大学のボート部の情報系の友達に教えてもらいました。

山口　お仕事にしようと思ったきっかけは？

上町さん　最初はIT系ではない会社を探していたのですが、就活するなかでIT系の会社に触れる機会があり、「これからの時代、ITを使わない会社はないですよ」と言われて、なるほどと思いました。私は文系出身で、ロシア語というマイナーな言語を勉強していたので、自分にしかできないことが身についていないというコンプレックスもありました。今後、仕事をしていくなかでIT系のスキルが身につけられたら、10年後、20年後も有用な人材になれるのではないかと思い、IT系の会社を選びました。

山口　上町さんの小中高時代についてお伺いしたいのですが、何か好きだったことなどはありますか？

上町さん　小学生の時は工作や手芸、読書が好きでした。フェルトを縫い合わせて小さいマスコットを作っていました。あとはファンタジー小説がすごく好きで、『ハリー・ポッター』とか『ダレン・シャン』などを図書館で借りて読んでいました。勉強はあまり好きではなかったのですが、小中まではそこまで苦手ではなく、宿題などは嫌々やっていました。

山口　当時の夢は何でしたか？

上町さん　小学生の時は本が好きだったので、図書館の司書になるのが夢でした。中学生の時はK-POPにハマっていたので、韓国語の通訳になりたい時期もありました。

休日はボードゲームカフェに行ったり、国内旅行をしたり

山口　趣味もいろいろあると伺いましたが、休日の過ごし方について教えてください。

上町さん　休日はボードゲームカフェに行ったり、大学時代のボート部の友達と旅行をしたりしています。

東京・上野にあるボードゲームカフェ

日光東照宮へ旅行

山口　北海道にも行かれたとか。

上町さん　北海道は小樽と札幌、室蘭に行きました。写真は小樽港をバックに撮ったもので、冬だったので雪がたくさん積もっていました。札幌で夜に味噌ラーメンを食べに行ったのですが、ラーメン屋さんの近くをキツネが通っていて、とても印象的でした。

小樽港の前で

山口　上町さんがエンジニアとして目指していることや、今後の目標を教えてください。

上町さん　エンジニアとしては、今頑張っていることを伸ばしていきたいです。ゆくゆくはお客様と一緒にものづくりをしていくSIer（エスアイヤー）と呼ばれるような仕事ができればいいなと思っています。また、お客様と一緒にシステムをつくっていくうえでも、プログラムの知識は切り離せないものなので、プログラムの知識やシステムのインフラを支えている部分の専門知識を身につけて、お客様の困っていることを聞く力を今の業務をしながら磨いていけたらいいなと思っています。

山口　最後に、未来のプログラマーへメッセージをお願いします。

上町さん　中高生の皆さんは、何か好きなことがあると思うので、好きなこと＝得意なことになれば、大学に行っても社会に出ても楽しい人生が送れると思います。ぜひ頑張ってください！

山口　本日はありがとうございました。

【インタビューを終えて】
常に新しいことに挑戦し続けている上町さん。東北から関西の大学への進学、親御さんの気持ちもご本人もすごく勇気がいることだったはずなのに、簡単そうに飛び越えて、しかもボート部で活動なんて、すごすぎて言葉が見つかりません。
どれも、ついついめんどうくさがりの私には想像もつかなかったことばかりで、きっと大変なこともあったと思いますが、一つひとつ楽しそうにお話しなさっていました。
今のお仕事ではかなりのコミュニケーション能力が必要そうですが、きっと一緒に仕事なさる方もポジティブにすすめられるだろうな、と感じさせるインタビューでした。（山口）

次回もお楽しみに。